

南イタリアにおける ギリシア語離島について

古 浦 敏 生

イタリア半島を長靴に喩えると、その爪先に当たるカラブリア地方の一部（A地域）と、踵に当たるサレント半島の一部（B地域）では、今日でもギリシア語が使用されている。A B両地域のギリシア語は、それぞれ基層とする言語の差のためか、互いにかなり異なっている。この二つの言語離島の成立に関しては、次の二説がある。(a) 古代ギリシア時代に侵入したギリシア語が、ラテン語に滅ぼされないまま2500余年生き延びている。(b) 古代ギリシア時代に侵入したギリシア語はローマ帝国時代に消滅し、ビザンティン時代に改めて侵入したギリシア語が今日まで伝わっている。

Morosi, G. (1847-1890)、Battisti, C. (1882-)は、「広大な地中海世界をラテン語化したローマ帝国が、膝元のA B両地域をラテン語化出来なかったはずはない。また、A B両地域のギリシア語は、古代ギリシア語よりもむしろ現代ギリシア語に似ているので、古代ギリシア時代に侵入した人々の言語が続いているのではない」と主張し、(b)説を支持する。これに対して、Rohlf, G. (1892-1986)、泉井久之助 (1905-1983)は、Morosi達の説を明確に否定し、(a)説を支持する。

今回は、(b)説の論拠となる直接資料が入手出来なかったので、(a)説の論拠を筆者なりに分類し、まとめてみた。

(1) 歴史的資料（古代作家の証言、碑文、など）に基づく論拠

- ① 古代ギリシア植民都市の崩壊とともに、そこで使用されていたギリシア語も消滅したという証拠は存在しないこと。
- ② シチリア島東海岸の都市（例えば、Siracusa）には、AD.3-5世紀の地下墓地があり、その墓碑銘の90%がギリシア語で書かれていること。
- ③ ローマ帝国全盛期には、ギリシアはローマの支配下に在ったが、ギリシア語は滅びなかったこと。
- ④ 北伊アドリア海岸の都市Ravennaは、AD.540-752年の間、ビザンティン帝国の支配下に在ったのに、この地のラテン語は何らギリシア語の

影響を蒙っていないこと。もしA B 兩地域へのギリシア語の侵入がビザンティン時代であったと仮定すれば、Ravenna にも当然ギリシア語が入り込んでいたはずである。

- ⑤ B 地域に近い Rudiae 出身の Ennius (BC.239-169)は、Apud Festum という作品の中で「当時の(A 地域を含む)カラブリアの人々は、土着語としてのオスク語と文化語・商業語としてのギリシア語を使う二重言語生活をしていた」と証言していること。

(2)言語学的考察に基づき論拠

- ①「政治的地位は失われても、言語的には独立している」という場合も存在すること。フランスにおけるバスク語がその好例である。
- ② A B 兩地域のギリシア語には、現代ギリシア語のどの方言にも見られない古い要素が残っていること。例えば、agolèο「フクロウ」(A 地域)。
- ③カラブリア州中部の二つの都市 Nicastro と Catanzaro を結ぶ等語線以南(A 地域を含む)のイタリア語カラブリア方言では、今日でも大量のギリシア語起源の語彙が用いられていて、ラテン語起源の語彙に乏しい。逆に、この等語線以北では、ラテン語起源の語彙が豊富である。従ってカラブリア州における古いローマ化の波は、この Nicastro と Catanzaro を結ぶ等語線以北までであったということ。
- ④ A B 兩地域のギリシア語では二重子音が保持されていること。例えば、古代ギリシア語の gramma「文字」の -mm- は、ギリシア本土では AD.1-2 世紀頃単子音 -m- になった。従って、ビザンティン時代のギリシア語では既に単子音であった訳で、これが A B 兩地域に侵入したとは考えられないこと。
- ⑤ A B 兩地域のギリシア語では、「…することができる」という表現は、「助動詞+不定詞」で表わされるが、現代ギリシア語では「助動詞+nà+接続法」が用いられる。この「助動詞+不定詞」構文は、ギリシア本土では AD.2 世紀末までしか使用されていないこと。

以上、(a) 説の論拠を列挙してみたが、A B 兩地域のギリシア語に対するイタリア語の影響(例えば、(2)④の論拠の場合、ビザンティン時代に侵入したギリシア語の単子音が、イタリア語の二重子音の影響で二重子音に変化した可能性)なども考慮すると、輕輕に(a) 説を支持する訳にはいかないように思われる。

(主要参考文献) 泉井久之助著『ヨーロッパの言語』1973, 岩波新書
Rohlf, G.: Studi e ricerche su lingua e dialetti d'Italia, 1972, Firenze